

行政視察報告書

令和8年7月20日

塩尻市議会議長 赤羽 誠治 様

会派名・委員会名 社会文教常任委員会

代 表 者 委員長 山崎油美子 印

次のとおり行政視察を実施しましたので、その概要を報告いたします。

実 施 日	令和8年7月7日～7月9日
視 察 地 及 び 視 察 事 項	7月7日 北海道苫小牧市 「高齢者の移動支援について」 7月8日 北海道恵庭市 「学びの森について」 北海道石狩郡当別町 社会福祉法人ゆうゆう 「共生型地域福祉の取り組みについて」 7月9日 北海道札幌市 札幌市精神保健福祉センター 「メタバース空間によるひきこもり支援 『よりどころ』について」
参 加 者	社会文教常任委員（8名） 山崎油美子 委員長 小口 直実 副委員長 中村 努 委員 赤羽 誠治 委員 青木 博文 委員 上條 元康 委員 石井 勉 委員 小野 芳幸 委員 議会事務局（1名） 中澤 麻希 主事

令和８年度社会文教常任委員会行政視察報告

社会文教常任委員会は、令和８年７月７日から７月９日までの３日間、北海道苫小牧市、恵庭市、当別町および札幌市において視察研修を行った。

１．北海道苫小牧市

「高齢者の移動支援について」

■概要

苫小牧市では、高齢者の社会参加を支えるため、多層的な移動支援を展開しています。

○バス運賃助成制度

70歳以上の住民を対象に、市内バスを１乗車100円で利用できる制度です。

○移送サービス事業（ハートマSTS）

公共交通機関の利用が困難な勇払・樽前地区において、社会福祉協議会が主体となり、ボランティアドライバーによる通院送迎を行っています。

○A I デマンド交通「あいとまタクシー」

実証運行として、住民の要望を反映した乗降スポットを巡るドア to ドアの輸送サービスを提供しています。

○介護支援いきいきポイント事業：ボランティア活動実績に応じてポイントを付与し、換金（上限5,000円/年）できる仕組みで、担い手の確保と介護予防を両立させています。

○「だけボラ」

ごみ出しや灯油運搬など、「それだけならできる」という小さな困りごとに特化したボランティア活動です。

○官民連携

市内自動車ディーラーが車両の無償貸与、保険料、燃料費を負担するなど、行政・福祉団体・企業が一体となった強力な支援体制が構築されています。

■所感

- ・ A I デマンド交通、社協の移送サービス、住民ボランティアを組み合わせることで、多層的な支援体制が確立し、強固な交通弱者支援が実現されている点は、塩尻市における地域包括ケアの鍵として非常に参考になる。
- ・ 車両提供や維持費を民間企業が担う官民連携モデルは驚くべきものであり、行政だけに頼らず民間企業の高い貢献意欲を活かした、持続可能な仕組みとして高く評価される。
- ・ 定期的な座談会を通じて住民の生の声を聞き、乗降スポットの設定などに反映させる姿勢が、満足度の高いサービスにつながっている。
- ・ 「だけボラ」の有効性：「“何でも”はできないが、これだけならできる」というボランティア募集（だけボラ）は、地域力を底上げする優れたモデルであり、本市での導入も検討すべきである。

- 単なる交通対策ではなく、健康づくりや社会参加を支える地域包括ケアの鍵として、本市社協との協働をさらに深めるべきである。また、「のるーと」等の既存インフラをどう機能的に活用するか検討が必要だという指摘があった。
- 灯油運搬の事例など、「若い人の力を借りないと地域維持が難しくなっている」現状に、強い危機感を感じた。

2. 北海道恵庭市

「学びの森について」

■概要

不登校児童生徒の学びの保障と社会的自立を目指す、大学との包括連携に基づいた取り組みです。

○大学内への設置

北海道文教大学のキャンパス内にセンターが設置されており、学校とは異なる安心感を提供しています。

○メンタルフレンド活動

教職課程の大学生がボランティアとして参加し、年齢の近い相談相手として学習支援や交流（昼食、遊び等）を行っています。

○三層の支援構造

校内教育支援センター（別室）、校外センター（学びの森等）、そして家庭訪問（ＳＳＷやメンタルフレンド）を組み合わせた柔軟な支援体制をとっています。

○支援理念

学校復帰だけを唯一の目標とせず、子ども一人ひとりの状況に寄り添い、将来の社会的自立を重視しています。

■所感

- 年齢の近い大学生との交流は、不登校児童生徒にとって大きな刺激と安心感につながっており、専門性と活力を兼ね備えた支援体制が非常に羨ましいと感じた。
- 学校とは異なる「大学」という場所が、生徒たちの心理的なハードルを下げ、キャンパスという環境が、通いやすい環境を作り出している。
- 不登校支援が、将来の教員を目指す学生たちの育成にも寄与しており、地域教育の相乗効果を生んでいる点が双方のメリットでもあり、特筆すべき点である。
- 不登校児童生徒が増加する中、重要なのは「学校に戻る事」だけではなく、「安心して過ごせる居場所」と「人とのつながり」をつくることであり、本市においても近隣の大学や専門学校との連携を模索し、学生ボランティアの力を借り、子どもたちが孤立することなく、自分らしく成長できる多様な学びの場づくりを提言していきたい。

- 本市においても、近隣の松本大学や信州大学との連携により、学生ボランティアを担い手として育てる仕組みを再現できる可能性がある。

3. 北海道石狩郡当別町 社会福祉法人ゆうゆう

「共生型地域福祉の取り組みについて」

■概要

「誰もが『福祉で語られない』街づくり」を理念に、障がい、年齢、立場を超えた交流を創出しています。

○共生型コミュニティ農園「ぺこぺこのはたけ」

障がい者の就労支援と、プロのシェフ監修のレストランを融合させ、多世代が集う地域プラットフォームとなっています。

○地域福祉ターミナル

ファミリーサポートや有償ボランティアのコーディネート拠点であり、子どもから高齢者までが自然に集まる「居場所」を提供しています。

○地域生活サポーター（有償ボランティア）

公的制度の狭間にある「ちょっとした困りごと」に対し、30分250円程度の謝礼を伴う支援を行います。有償にすることで、利用者の心理的抵抗を減らす工夫がなされています。

○ごちゃまぜの環境

支える側と支えられる側という固定的な関係を排し、誰もが役割を持てるコミュニティを目指しています。

■所感

- 理事長の確固たるビジョンに基づき、利用者のニーズを起点に事業が展開されており、スタッフの充実と事業継続が両立されている点に感銘を受けた。
- 心理的抵抗を減らすための一定の謝礼（30分250円等）を伴う仕組みは、ごみ出しや窓拭きといった制度の狭間の課題解決に極めて有効であり、有償ボランティアの可能性を感じた。また、謝礼を伴うことで、利用者が「申し訳ない」「頼みにくい」という心理的抵抗を減らし、対等な関係を築ける仕組みが優れていると感じた。
- 特別な施設ではなく、日常の中で自然に人が集まる場が地域共生社会の本質であるという発見があった。
- 障がい者支援と高齢者介護が相乗効果を生み、日常の中で自然に人が集まる「居場所」が作られており、地域共生社会の具現化について、本市の政策提言に活かせる点が多い。

4. 北海道札幌市 札幌市精神保健福祉センター

「メタバース空間によるひきこもり支援『よりどころ』について」

■概要

I C Tを活用し、外出や対面相談に不安を感じる層に向けた新たな支援の入り口です。

○メタバースの活用

アバターを使って匿名で参加できるため、顔や本名を出す必要がなく、参加のハードルが極めて低いのが特徴です。

○「居場所」としての機能

無理に会話をする必要はなく、「ただそこにいるだけ」「聞くだけ」の参加も認められています。

○多職種・企業連携

N P O法人が運営を担い、精神保健福祉センターの専門職が関与するほか、ソフトバンク等の企業と協力したメタバース上での就労体験（ショートタイムワーク）も実施されています。

○支援哲学

結果を急がず、まずは安心して過ごせる場を確保し、本人のペースで社会とのつながりを取り戻すことを重視しています。

■所感

- 自宅から匿名で参加できるデジタル技術の活用は、従来の支援につながりにくかった層へのアプローチとして非常に大きな可能性を感じた。
- 当事者のペースを尊重し、無理なく社会とのつながりを取り戻していく哲学は、ひきこもり支援（「結果を急がない」支援）において極めて重要な視点である。
- 大規模な組織化は難しくとも、メタバースを活用した相談窓口や就労体験は、本市の若者支援や不登校対策にも小さく始められる有効な手段になり得る。
- アバターによるメタバース利用が参加のハードルを下げっており、塩尻市の不登校対策などへの応用可能性を感じている。
- 相談場所ではなく「居場所」の提供という考え方に共感し、デジタル技術を活用した新たな支援の可能性について、今後の政策提言に活かしていきたい。
- 高齢者のひきこもり率の高さに驚き、民間企業（ソフトバンク）の協力を得た事業構築は塩尻市でも効果があるとしている。